

いちのみやの芸術文化

■ 特集「人柱観音」

■ 「活 動」心とらぐ短歌会

短歌部門 真清短歌会 足立 絹子

「エッセイ」 出会いから始まる写真創作

写真部門 一宮写真協会 武鹿 千代

■ 第75回一宮市美術展入賞者

■ これからの催し

■ 文化講演会（報告）



人柱観音
(金刀比羅神社境内・起字堤町)

2017.12

第43号

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

ひとばしら かん のん 人柱観音

人柱とは城や治水などの難工事に對し、人の命を捧げて工事の完成を願う生贄です。日本国内はもとより世界各地で人柱伝説が残されています。一宮市内でも江戸時代初期の小信川（五城川）の堰き止め工事で、小信中島の与三兵衛という人物が人柱になったという伝承があります。起の金刀比羅神社の裏側に建っている人柱観音は与三兵衛と濃尾大橋の工事中の事故で死亡した三名の作業員を祀ったもので、濃尾大橋竣工の翌年昭和三十二年（一九五七）に開眼となりました。与三兵衛は小信にあった中之坊（瑞岩寺、現西五城信行寺）で働く寺男で信心深い人物であり、自ら進んで人柱になったとされます。昭和十年代に編纂された『起町史』には雨の夜は川を堰き止めた場所に怪火が現れるという「与三の火」という逸

話が記されています。怪火は大正時代の耕地整理後は見えなくなったそうです。

与三兵衛以外にも、東加賀野井地区に定七という人物の人柱伝承もありますが、詳しい内容はほとんど知られていません。定七を祀る社が東加賀野井の水道取入口付近にあったそうですが、大正時代には既になく、加賀野井の天神神社に合祀されたと伝えられています。

人柱そのものは史実ではないことが多く、人柱を止めたという伝承もあります。人柱伝承の存在する背景には、その工事がいかに大きな工事であったかを意味しています。



▲人柱観音(金刀比羅神社境内・起字堤町)



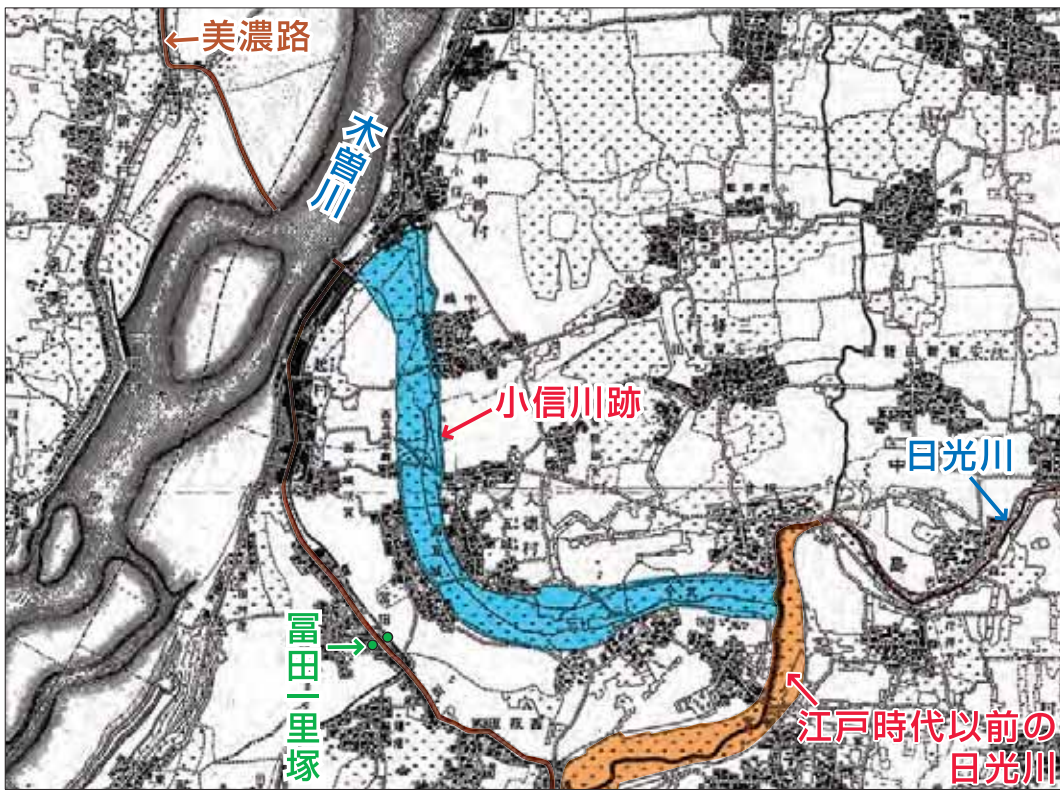
▲天神神社(東加賀野井)

小信川の堰き止め工事

人柱伝承が残る小信川の堰き止め工事は木曾川の本流を現在の形に近づけた工事です。江戸時代以前の木曾川の流れは変化が激しく、戦国時代は木曾川の本流は現在と異なり、小信川から日光川に流れており、萩原には渡船場（天神の渡し）も設けられていました。現在の小信川の川幅は狭くなっています。江戸時代初頭までは川幅の広い川でした。

戦国時代の小信川の川幅は五十間程度（約九十メートル）とされ、注意深く観察すれば高低差から小信川の跡は現在でも把握でき、川を挟んで西五城と東五城が位置しています。東五城には「古川」という字名も

残っています。また、明治時代の地図（左上図）でも川幅が確認できます。かなり広い川幅であったことは間違いないようです。尾張国内に本流が流れていることはそれだけ洪水の危険性が高まりました。慶長十二年（一六〇七）、家康の十一男



▲明治20年頃の起付近の地図（明治24年陸地測量部 二万分の一地形図「竹鼻町」より）

である義直が尾張藩主になり、領内の検地や名古屋城建築、城下町整備などの領国整備が開始されました。小信川の閉川工事も慶長十三年頃に開始されたと言われます。工事を指揮したのは幕府の代官頭伊奈備前守忠次でした。伊奈忠次は家康の小姓として仕え、関東の利根川東遷工事や新田開発等で活躍した人物です。起の「本陣山」という字名は忠次が本陣を置いた場所とされます。

この小信川閉川工事後、旧河川沿いには多くの新田が開発されました。その名残は「新田」という字に残され、東五城には伊奈備前守に關わる「備前」という字が残っています。



▲現在の小信川(西五城字中川田付近)

また、この工事により日光川の川幅も小さくなり、本流は現在のようになり木曾川の水量も増え、起に渡船場が設けられました。その後、三百年以上、渡船場は維持され、昭和三十一年に濃尾大橋の架橋により廃止となりました。

小信川閉川工事と濃尾大橋の架橋はともにこの尾張地域に大きな変化をもたらした歴史的転換となった大事業でした。人柱観音にはこの二つの大事業に関わり、命を落とした人を供養する意味もあります。

（一宮市尾西歴史民俗資料館 学芸員 宮川充史）

心和らぐ短歌会

短歌部門 真清短歌会 足立 絹子



市民短歌教室にて

「短歌、えっ、なんだか難しそう。」
私が知人を短歌会へ誘うと、たいていこんな応えが返ってきます。歌会始の様子をテレビで見たりすると、短歌は遠いもの、特別な人達のものと思われるかも知れません。もしかしたら短歌会の中には、難しい事を色々言う会があるかもしれません。文語でなければならぬ、孫の歌はいけない、お金の話は下品ですエトセトラ。
しかし、私達の「真清短歌会」にはそんな小難しいルールは一切ありません。誰でも自由に自分の思いを歌にして発表する事ができます。勿論、口語新仮名OKです。

現代は様々な価値観が交錯し、また



平成29年吟行会にて(撮影場所：岡崎城)

※1：歌会始の儀において披露される短歌の作者

どんどん移り変わって行きます。そんな中で心の底に重いものを抱えている人は、かなり多いのではないのでしょうか。歌を詠んでも問題の解決は図れません。しかしながら、自らの心の中を客観的に見る事ができます。また他の人の歌に接して、こんな考え方や感じ方があるのだと気付き、それによって抱りが和らぐかも知れません。
五月と十一月を除き、毎月第二日曜日に一宮スポーツ文化センターで、歌会始(※1)の伊藤正彦先生指導の下、午後一時より市民短歌教室を開いています。どんな様子なのか一度覗いてみて下さい。

その他に年三回、短歌大会を催しま



平成29年吟行会にて(撮影場所：大樹寺)

※2：本誌11頁にて「蒼原」の紹介を掲載

す。また、同人誌「蒼原」(※2)を年数回発行し、真清田神社の短冊祭や観月祭にも奉仕献詠しています。
会員の楽しみは年一回の吟行会です。今年は岡崎市へ行き、岡崎城や大樹寺を拝観しました。昼食はお城を望みながらホテルでバイキング。みんなこの時は血糖値や体重の事を忘れ、楽しくすっかり飲んで食べてお喋りして、親睦を深め、ストレスを解消しました。
短歌はお金がなくても、紙と鉛筆があればつくれます。また外出できなくなっても「蒼原」に投稿する事により、いつまでも続けられます。

さあ、あなたも一歩前に踏み出して、真清短歌会へおいで下さい。

出会いから始まる写真創作

写真部門 一宮写真協会 武鹿 千代

気軽な気持ちで始めた写真ですが、先生や先輩方の表現の素晴らしさに衝撃を受け、写真の魅力に引き込まれ、二十年が経ちました。写真を楽しむと同時に、イメージ通りに撮れない、力のある写真が撮れないと悩んだ時期がありましたが、そんな時、師匠から「写真は被写体の力を借りて表現する芸術。一生懸命に取り組んでいると、被写体が応えてくれるよ」という言葉をかけていただきました。その言葉を励みに写真を撮り続けて

いくうち、多くの出会いがあり、中でも私の写真人生を左右する大きな出会いが二つありました。

一つは、当時小学四年生の美少女と、そのご家族との出会いです。それまで主に風景を中心に撮影していましたが、本人だけでなくご家族のご協力も得て九年にわたり彼女を撮影させていただくことにより、人物写真の楽しさ・難しさを学び、作品の幅が広がりました。今年大学生になった彼女の成長は、私の写真の成長と同時進行のよう

に感じています。



ながれ髪

もう一つは、御嶽山の裾野に広がる開田高原と、そこで知り合った方々との出会いです。四季折々の美しい自然風景に魅かれ、また温



開田詩情 —黎明—

かく迎えてくれる友人達に会いたくて、十数年来、毎月のように撮影にでかけています。透明感あふれる色彩豊かな風景に心弾ませ、無心でシャッターを押す瞬間が至福の時です。三年前、御嶽山の噴火という大災害が起き、自然の脅威に言葉を失いました。被災された方々、突然の悲しい別れを余儀なくされた方々、そのお気持ちを考えると心が苦しくなります。噴火後、しばらくぶりに撮影にでかけた夕方、御嶽山を囲むように幻日が現れました。その慈愛に満ちた光景は、まるで悲しい思いをや

さしく包み込んでいたかのようで涙があふれました。心で手を合わせながらシャッターを押しました。一枚の写真から自分の思いが伝わるような、また写真に写っていない部分から無限に物語が生まれるような作品創りを目標として、写真に取り組んでいます。写真は被写体との出会いがなければ作品として残すことができません。一期一会のご縁を大切にし、美少女と開田高原の二つをライフワークとして、見てくださる方々の心に響く写真を撮り続けていきたいと思えます。



開田詩情 —慈愛の刻—

第75回

一宮市美術展

11月16日(木)～19日(日)まで、一宮スポーツ文化センターで「第75回一宮市美術展」が開催されました。市内を中心に近隣市町村や、県外からも多数作品が寄せられ、出品者は506名で、審査の結果、入賞となった175点をはじめ、500作品が展示されました。

期間中は、約4、500人の方が会場を訪れ、作者の熱意・エネルギーを感じさせる多数の作品を熱心に鑑賞されていました。また、今年も金曜日の終了時間が午後7時に延長され、延長した時間帯では洋画・書・写真部門の種目別解説も行われました。お子さん連れのご家族など、ご来場された方々は、皆真剣に解説を聞いていました。

各部門で入賞された方は次のとおりです。なお、同一賞内での掲載順は順不同です。(敬称略)

市長賞受賞作品は一宮市博物館で行われた「2017一宮市現代作家美術秀選展」(12月2日(土)～17日(日))でも展示されました。

日本画

審査員

久世直幸 河村明美

市長賞

原田 功

教育委員会賞

湯 浅真奈美

美術展賞

野田重夫 高柳 襄
松本君子 星野真由

奨励賞

柴田豊子 宇佐見信子
柴田智美 山田久子

入選 32点

洋画

審査員

斎藤吾朗 天野一夫
後藤泰洋 三輪清弘

市長賞

中山昌明 加藤栄子
倉地彩子

教育委員会賞

小菅 修 安藤孝信

美術展賞

小澤富美子 田中勢智代

柘植雅一 山本忠弘

小玉君子 鈴木孝治

平野肇 森健次

藤井忍 梅田恵子

佐藤文彦 星野鎮

柴田京子 丹慶哲宏

那須響 鮎川実来

飯干智子 寺澤裕見子

山田美保子 久田千恵子

高田國光 江口和夫

島津秀典 竹中美浪

奨励賞

神谷武 神谷久子

岩田富雄 臼井哲雄

森茂正 山田規夫



洋画部門解説

入選 140点

ヒサオカメヤマ

平松恭輔 浅野なつ子

吉川京介 浅田百合子

柿原テ儿子 宮地時美

澤田康孝 内藤啓善

則武武子 徳田泰弘

牧野徳治 磯部和久

北尾千鶴 安井昭二

木村忠嗣 井上美恵子



洋画部門解説

彫刻・立体

審査員

森 克彦 櫻井真理

市長賞

ヒサオカメヤマ

教育委員会賞

塚本将慈

美術展賞

多治見正勝 伊藤 毅

奨励賞

神原 実 堀部美奈子

入選 20点



彫刻・立体部門解説

工芸

審査員

加藤陽児 鶴飼辰郎

市長賞

川瀬正二

教育委員会賞

河合和子

美術展賞

尾関祐二

宮田由美

奨励賞

中西正美 大島忠敏

斉藤之康 丹慶哲宏

小沼雅典 鈴木博司

入選 37点

大村一美

デザイン

審査員

服部純栄 岡崎美穂

市長賞

荻 珠里

教育委員会賞

奥川紗和子

美術展賞

梅村歩夢 柘植雅一

奨励賞

脇田光健 廣間友栄

入選 19点

書

審査員

安藤滴水 土屋陽山

亀山雪峰 武山翠屋

則武 穹

近藤芳玉 林 如華

市長賞

岸田松峰 渡邊水香

教育委員会賞

井上嘉蓮

佐々木花抱

林 華静

美術展賞

川合泛佳

石井玉華

土屋葵芳

尾関明美

佐藤狸紗

前野樹風

梶木光雪

丸井千尋

大竹瑞光

倉橋澄雨

戸本有荷

菱川 武

川辺舟楫

秋好水遼

伊藤彩秀

橋本佳静

後藤柳月

伊藤香竹

渡辺湖風

山内山抱

山内山抱

林 翠竹

小川香風

大塚雅泉

松岡流麗

戸谷嘉恵

小林 進

小 林 進

五藤三禮

鈴木悠水

山田紅照

山田行鶴

川本青柎

河合花影

飯田泰郷

濱田梨沙

岩根民江

脇田玉波

保田昌石

神田鴻都

栗田梢光

高桑愛降

内出紅華

丹羽碧洋

佐久間汀翠

山崎紅影

北村虹景

寺西真弓

谷本喜泉

村上桂峻

竹内深風

谷本藤男

入選 146点

写真

審査員

近藤誠宏

武鹿千代

大西正信

市長賞

小澤直哉

教育委員会賞

小原勇二

桜井悦子

野村政明

安藤雅彦

大矢真理子

中村妙子

渡部与明

中井孝弘

辻 徳治

中村和夫

古澤光生

奥村佳代

笠野俊彦

井上靖高

原 紹郎

松岡 勇

入選 106点

丹羽正仁

林 三平

今井彰二

尾関君代

加藤通子

岡田忠夫

橋本秀子

千田陞末

内田昌臣

安藤義弘

岩田 明

安藤正一

野口博子

長谷川 江

丹羽武司

安藤 紀

岩田重和

岩田重和

岩田重和

岩田重和

岩田重和

岩田重和

文化情報



「遠い日の記憶」 川原 孝文

《市および市内公共施設の催し予定》

※一宮市博物館・三岸節子記念美術館
・尾西歴史民俗資料館について
○入館は午後4時30分まで
○月曜休館(月曜日が休日の場合は開館)、休日の翌日休館、12月28日(木)・1月4日(木)休館

一宮市博物館

〒463-2115

企画展「暮らしの中の民具」

～昔の遊び・今の遊び～

日時 1月13日(土)～3月11日(日)

午前9時30分～午後5時

内容 ●昔なつかしい生活道具の展示を通して、今と昔のくらしの違いを見つめます。

観覧料 一般 200円

高年生 100円
小中生 50円
※市内小中生・65歳以上無料

「民俗芸能公演」

日時 ①2月11日(日)午後2時～3時

②2月18日(日)午後2時～

2時30分 ③2月25日(日)午後

2時～2時30分

内容 ●①島文楽②ばししょう踊③宮後住吉踊

定員 ●先着50名(当日午後1時より整理券を配付)

※要常設観覧料

三岸節子記念美術館

〒632-892

常設展「三岸節子

マチエールの魅力」

日時 1月16日(火)～4月15日(日)

午前9時～午後5時

内容 ●三岸節子作品の特徴のひとつである、感性と技術に支えられた独特のマチエール(油彩画の表面の肌合い、質感)の魅力に迫ります。

観覧料 一般 320円

高年生 210円
小中生 110円

※市内小中生・65歳以上無料
※企画展会期中は企画展観覧料に含む

企画展「フジフランソワ展」

日時 2月3日(土)～3月4日(日)

午前9時～午後5時

内容 ●日本画家フジフランソワの、時を越えて人々のそばに生きてきた神々をテーマにした作品を中心にご紹介します。

観覧料 一般 500円

高年生 250円

※小中生・市内65歳以上無料

美術の学校

日時 2月10日(土)

①午後2時～4時

2月11日(祝)

②午後1時～2時30分

③午後3時～4時30分

内容 ●①美術鑑賞教育講座「話してみよう美術館、使ってみよう対話鑑賞」②マッキー先生の「びょうぶの中に入れて見よう」③現代マンガの成り立ちと構成要素

講師 ●①・②牧井正人さん(福井県

観光営業部文化振興課主任)③田中久志さん(大垣女子短期大学デザイン美術学科教授)

定員 ●各先着60名

受講料 ●無料

申込み ●各回、開始の30分前から会場にて受付

美術実技講座「楽しいおはな、悲しいおはな。心のお花の標本作り」

日時 3月17日(土)・18日(日)

①午前10時～12時

②午後2時～4時

内容 ●水彩画で描いたお花を切り抜いて、紙で押し花のような標本を作ります。

講師 ●今村文さん(現代アーティスト)

定員 ● ①10組20名 ②20名

対象 ● ①親子(小学1年生以上)

②中高校生以上

※参加無料・要申込み。詳しくは
広報2月号を参照

尾西歴史民俗資料館

〒(62)9711

ふるさとを訪ねる

日時 ● 2月4日(日)

午前8時40分～午後4時30分

内容 ● 資料館が所蔵する資料が
くられたふるさとを訪ね、
資料の歴史の意味や技術な
どを広く学びます。

定員 ● 30名

参加料 ● 入館料等実費

(2,200円程度)

※要申込み。詳しくは広報1月号
を参照

歴史講座「歴史と民俗21象の旅」

日時 ● 2月11日(日)・18日(日)

午前9時～午後5時

内容 ● 江戸時代に美濃路を通って
長崎から江戸までを旅した
象について学びます。

定員 ● 40名

※参加無料・申込み不要。詳しく

(は広報2月号を参照)

歴史講座「街道文化を探る」

日時 ● 3月4日(日)

午前9時～午後5時

内容 ● 宿場町の史跡が豊富な地域
を訪ね、市内では失われつ
つある宿場の文化や歴史資
料の大切さを学びます。

定員 ● 30名

参加料 ● 昼食代実費

(2,000円程度)

※要申込み。詳しくは広報2月号
を参照

中央図書館

〒(72)2343

写真展「川の恵み」

日時 ● 3月16日(金)～30日(金)

午前9時～午後9時

内容 ● 尾張地方の川の歴史を表現
する写真を展示します。

会場 ● 6階 多目的室2

観覧料 ● 無料

青少年育成課

〒(84)0017

ヤングフェスティバル

日時 ● 2月25日(日)

午前10時～午後2時

内容 ● 青少年グループ活動の発表
会で、一般の方も自由に
覧いただけです。子ども向
けのイベントもあるので、
ご家族連れでもどうぞ。

会場 ● 木曾川庁舎2・3階

参加料 ● 無料(一部イベント有料)

経済振興課

〒(28)9148

一宮市消費生活フェア

日時 ● 2月17日(土)・18日(日)

午前10時～午後4時(18日
は午後3時まで)

内容 ● 消費生活・食生活など、日
常生活に密着した問題を研
究し、パネルなどで発表し
ます。

会場 ● 尾張一宮駅前ビル

入場料 ● 無料

(ハ財)一宮地場産業
ファッションデザインセンター
〒(46)1361

ジャパン・ヤーン・フェア

&総合展「THE尾州」

日時 ● 2月21日(水)～23日(金)

午前10時～午後5時

内容 ● 国内最大規模の糸の展示会
や尾州産地の素材、またそ
れらを活かした衣装等を展
示し、繊維産業、ファッシ
ョン産業の今をPRします。

会場 ● 総合体育館

入場料 ● 無料(糸の展示会は商談
者のみ入場可)

生涯学習課

〒(85)7075

あいちトリエンナーレ地域展開

事業「あいちアートプログラム」

現代美術展「織り目の在りか 現

代美術in一宮」

日時 ● 1月20日(土)

～2月12日(振休)

内容 ● 愛知県出身作家やあいちト
リエンナーレ出展作家を含
む10名の現代美術作家の作
品を、施設等に展示します。

会場 ● オリナス一宮、尾西生涯学
習センター墨会館、尾西歴

史民俗資料館別館旧林家住
宅、一宮市役所本庁舎、
i
ビル

観覧料 ● 無料

観覧料 ● 無料



川柳社委員が指導します。
(初心者歓迎)
参加料▼無料
申込み▼当日直接会場

『**清聲會定例会**』

【問合せ先 一宮漢詩清聲會】
☎(78)7953
日時▼12月23日(土)・1月27日(土)
2月24日(土) 午前10時〜

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の基本的な読み方を
はじめ、作者の時代背景に
も触れながら初めての方に
も分かりやすく「唐詩三百
首」を解説します。

(初心者歓迎)

講師▼三島徹氏(東洋文化振興会
会長)

参加料▼月2、000円

申込み▼当日直接会場

『**市民短歌教室**』

【問合せ先 真清短歌会】
☎(51)3570
日時▼1月14日(日)・2月11日(日)
3月11日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実作
指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料
申込み▼当日直接会場

『**狂俳月例会**』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】
☎(78)5002
日時▼1月13日(土)・2月10日(土)
3月10日(土) 午後1時〜
(2月は午前9時30分〜)

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選により
優秀作を記録に残します。
(初心者歓迎)
参加料▼無料

『**清聲會作詩教室**』

【問合せ先 一宮漢詩清聲會】
☎(78)7953
日時▼1月16日(火)・2月6日(火)
3月6日(火) 午前10時〜

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の作り方の指導をは
じめ、持ち寄った創作詩の
添削の検討を会員間で行い
ます。(初心者歓迎)

参加料▼年3、000円

申込み▼当日直接会場

『**新年短歌会**』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570
日時▼1月28日(日) 午後1時〜
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼どなたでも(大会に先立ち
1月18日(木)までにハガキに
て雑詠一首提出)。見学は無
料です。

参加料▼500円

申込み▼当日直接会場

『**平成29年度(公社)中部日本
書道会一宮支部講演会**』

【問合せ先 (公社)中部日本書道
会一宮支部】
☎(51)0646
日時▼2月25日(日)
午後4時〜5時30分

会場▼一宮スポーツ文化センター

講師▼亀山雪峰先生
(公社)中部日本書道会一
宮支部八代支部長、元日展
会友・元読売書法展審査員、
国際芸術文化協会運営委員、
愛知21世紀芸術家集団代表
理事、愛ランド21遊墨書道
会会長)

演題▼「書のいろいろ」
「書とは・美しい文字の形」
中部書壇の変遷など〜

入場料▼無料(一般聴講歓迎)

『**市民俳句教室**』
【問合せ先 一宮川柳社】
☎(77)3479
日時▼12月17日(日)・1月28日(日)
2月25日(日) 午後1時〜
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼自由吟および課題吟を一宮

川柳社委員が指導します。
(初心者歓迎)
参加料▼無料
申込み▼当日直接会場

【問合せ先 一宮漢詩清聲會】
☎(78)7953
日時▼12月23日(土)・1月27日(土)
2月24日(土) 午前10時〜

【問合せ先 一宮漢詩清聲會】
☎(78)7953
日時▼12月17日(日)・1月28日(日)
2月25日(日) 午後1時〜
会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼当季雑詠3句を一宮市民俳
句教室委員が指導します。
(初心者歓迎)
参加料▼無料
申込み▼当日直接会場

『いちのみや文芸』

第46集を

刊行いたしました

10月28日(土)に「いちのみや文芸第46集」を発行しました。随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、狂俳、川柳の7部門あわせて318名の方から寄せられた2,519作品を掲載しています。ぜひ一度、手に取ってお読みください。価格は1冊800円です。ご希望の方は事務局(市教育委員会生涯学習課)までお尋ねください。

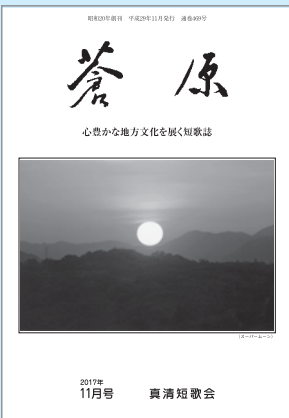


加入団体による発行物の紹介

「蒼原」そうげん

「蒼原」は真清短歌会(短歌部門)から、奇数月に発行されている会誌です。

「蒼原」は、昭和20年1月、一宮歌話会によって「ほむら」(心火)として産声を上げ、終戦を機に第7号から尾張平野を意味する「蒼原」と改題されました。現在の最新号は平成29年11月号で通巻469号となっています。短歌はもちろん評論や随想も掲載されており、心豊かな地方文化を展く短歌集となっています。真清短歌会は昭和25年6月、真清歌道会と一宮歌話会が合



流して発足され、その足跡も「蒼原」に刻まれ、脈々と誉れ輝いています。

中央図書館には創刊号から保管されています。また、事務局(市教育委員会生涯学習課)にも最新号がございますので、是非、手にとってお読みください。

一宮市表彰条例 による表彰

9月1日(金)、一宮市木曾川文化会館尾西信金ホールにおいて、市制96周年記念式典が行われました。式典では当協会の木全修理事(芸能部門)が文化功労者として、その永年にわたる功績を讃えられ、一宮市長より表彰を受けました。心よりお慶び申し上げます。

愛知県文化協会連合会の

催し(報告)

愛知県文連美術展

9月27日(水)～10月1日(日)、愛知県美術館ギャラリーを会場に第42回愛知県文連美術展が開催され、県下より309作品が出品されました。

期間中、約1,600人の方が来場され、どなたも芸術の秋を満喫されていました。

本協会からも9名の方が出品され、藤塚章さん(日本画部門)が愛知県文連美術展賞、則武武子さん(洋画部門)が特選に選ばれました。

愛知県民茶会

10月15日(日)、東郷町総合体育館を会場に、愛知県民茶会が行われました。

愛知県文化協会連合会と東郷町文化協会のご尽力により、6つの文化協会の皆様が設席をされ、当日は約2,100人の方が来場されました。

不寛容にならないための読書

小説家 羽田圭介さん

十月二十八日(土)、一宮市尾西市民会館にて文化講演会を開催し、羽田圭介さんを講師としてお招きし、ご講演いただきました。

【講演要旨】

こちらの講演会では三十代の講師は初めてということをお伺いしたときは、緊張してしまいました。そうすると、最初は少し硬い内容の話をした方が良いのかなとも思いましたが、そもそも今日このお客さんの中にど



れくらい僕の本を読んだ方いらっしゃいますか。ありがとうございます。予想よりも結構いらっしゃいましたね。他の場所でも確認しますが、大体、五分の一いけば良い方ですので非常に嬉しいです。ちなみに普段から本を読まれている方はどれくらいいらっしゃいますか。結構いらっしゃいますね。ということでは、僕の本を読んでもらえるチャンスはまだあるということなので、これからより多くの方に読んでいただけるように精進します。

先ほど、市長さんから芥川賞は日本最高峰の賞だということを紹介いただきましたが、実は芥川賞はどちらかというと新人賞という感じに今はなっています。ただ新人と言っても、昔は一回候補になって落選してしまっただけ、もう一度候補になるのは非常に難し

いと言われるほど、厳しい賞だったのですが、最近はデビューから10年経って、中堅と言われる世代の方でもいただけるので、わりと功労賞的な意味合いになってきています。今では新人賞という意味合いの賞ですらなくなってきているようにも感じます。

態度ということについて少しお話したいと思います。私は芥川賞を受賞してから色々なお仕事の依頼をいただけるようになりました。その調整等を全部自分でやるうとすると、例えば、いただいた依頼を丁寧に断りする、日本人的なやり方をしていくとかなり時間がかかってしまいます。申し訳ありませんが何々がありまして、ご期待に沿いかねますというような返事をする、そこは何とかこうしますの、また丁寧に断事をいただきます。やんわり断ろうとすると、それは拒絶とは少し違い、まだ可能性があるようにみえてしまうので、結構何往復もすることになってしまいます。最初は私もそのように返事していましたが、最近は条件とか全

部確認して、用件のみの返事を送るようになりました。そうしたら膨大な依頼等も意外と処理できるようになったんですね。他にも、メール等の処理する時や取り次いでくれる編集者さんにも、イエス、ノーって、段々と一言で決断していくようになってきました。そうしていくうちに、ふと冷静になると、最近態度がでかいなと思ってしまう。でも、じゃあ態度を改めた方がいいかなと考えた時に、別に間違っていないなと思ったんですね。これは自分の置かれた環境が変わって、態度が変わってくる。態度が変化するプロセスを身をもって理解できたなと思いました。

態度というものが何故あるかというと、自分がどういう者であったかという記憶のレールの上になり立つ振る舞いだと思います。周りの中で自分がどういう人間であったかということに尽きると思います。自分が何者であったかの認識が必要になってきます。そのためには他者と関わらないと知る事ができません。

【題字】 武山翠屋
【編集・発行】 一宮市芸術文化協会

【連絡先】 一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7075 / FAX 0586-73-9213